

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第2回川西市行財政改革審議会	
事務局(担当課)		総合政策部行革推進課	
開催日時		令和5年3月22日(水) 18時30分から19時45分	
開催場所		市役所4階 庁議室	
出席者	委員	上村 敏之 委員、樫野 孝人 委員、足立 泰美 委員、福田 直樹 委員、東 朋子 委員、田辺 彰子 委員	
	その他		
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、飯田総合政策部副部長、富本行革推進課長、増田主査、奥村主任、多田主任	
傍聴の可否		可	傍聴者数 1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 議事 (1)令和5年度予算の概要について (2)行財政改革の取組みの報告について (3)(仮称)行財政改革大綱の骨子(案)について 4. 閉会	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

## 審議経過

事務局	<p>お時間が参りましたので、令和4年度第2回川西市行財政改革審議会を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にも関わらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、川西市総合政策部行革推進課の増田でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>まず初めに、お手元にお配りしております資料の確認をさせていただきます。資料は全部で8枚あります。</p> <p>一番上に会議次第がございます、その後に資料1から資料5までございます。ご確認をお願いいたします。</p> <p>また今回はデジタル仕様にリニューアルした庁議室での開催となっております。</p> <p>リニューアル工事の施工期間が未定だったこともあり、このように紙の資料をお配りさせていただいております。</p> <p>次回の審議会からは、ペーパーレスの観点から、紙の資料はお配りせず、進行していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>また、皆様にお願ひがございます。</p> <p>ご発言の際には、マイクを通してご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>会議録を作成するために、ICレコーダーを使用しておりますが、マイクを通した音声のみしか録音出来ない仕組みとなっておりますので、ご発言の際は、お手元のマイクのこの緑色に変わっているのを確認してから、ご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>本日の川西市の出席は、市長の越田、総合政策部長石田、総合政策部副部長飯田、行革推進課長富本、行革推進課主任奥村、行革推進課主任彦田となります。</p> <p>当審議会は、川西市行財政改革審議会の会議公開に係る、傍聴要領に基づき、公開し、傍聴可能となります。</p> <p>会議録については、各委員のお名前を伏せた形で、発言要旨を事務局でまとめ、会長にご確認、ご承認いただき、公開となります。</p> <p>よろしくお願ひします。</p> <p>では初めに、越田市長より、皆様へご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>はい、行財政改革審議会をこのように対面でできるようになりましたことを心からうれしく思っております。</p>

委員の皆様方には我々の行政改革の取組に、本当にご協力をいただきご助言をいただいていることを心から感謝を申し上げたいと思います。

また私自身も、この10月、2期目の当選を果たすことが出来ました。

やはり厳しい財政状況の中で多くの事業を見直しておりますので、見直した事業の対象になった方からすると、やっぱりそれなりの厳しいお声というのはちょうだいをいたしました。

場合によってはこちらはカットしてばっかりだとか、財務省みたいだなとかということを言われました。

ただ、一方で、政策を子供や教育から始めていくんだと、子供が幸せになるということの一つの大きなキーワードにし、まちづくりを進めていくということ、公言をして進めておりますので、そういったこの政策に対して共感をしていただく、そういった方たちからは、川西市は良くなったよねというお声もちょうだいしているのかなというふうに思っています。

当初、私が市長に就任した4年前というのは、財政の収支均衡を実現することが、最初の大きな目的でありましたので、大きな夢を語るということより、厳しい状況を何とか平常に持っていくんだということが、一つの大きな目標で4年間進めてきました。

いろんなこともございましたので、2年度3年度4年度は、何とか収支としては均衡の状況、基金も若干積むこともできるという状況になりました。

こういった状況に改めて立ったときに、これから我々が進む私たちが進まないといけないのは、もちろん健全な財政ということと同時に、やはりそれを前提にしながらも、新しい夢を語って、しっかりとして子供たちを中心にみんなが幸せにこうやってなるんだよということ、共感していただいた上で、改めてやっぱりそれを実現するためには財源が必要だから、手法を変えないといけないから、こういった政策の見直しをしていくんだ。

個別の事業の見直しということもそうなんです、この事業を見直す仕組みをどういうふうに作っていくのか。

こういったことも含めてディスカッションをさせていただきたいというふうに思っております。

たとえば、この3年間で事業再検証として、議論いただいた上で、なかなか手のつけられなかった見直しで言いますと、自治会報償金を廃止をして、新たな補助金制度をつくるということ、をさせていただきました。

さすがに大きなインパクトがあったようで、市議会から附帯決議をいただくという状況もありました。これは我々が進めていく上で、我々としてベストなことをしっかりとしていく。

市民の皆さんにあるその当事者としてのベストがあるわけですから、そこをしっかりと埋め合わせていかないといけないと思っておりますが、やはり忘れちゃいけないのは、我々自身が行政自身がしっかりとベストを持ち続けるということだと思っております。

	<p>ただその裏づけというものは、やはりここにいらっしゃる皆さんの専門的な視点から、いやもっとこうするべきじゃないかともっとこういう視点が要るよということ、我々に対してやはりご助言をいただくという、このことに大変期待をするところであります。</p> <p>各委員の皆様には、それぞれ最初の段階の時には、もう最初の事業再検証の3年間だけですからと、そんなお願いもしたところかもしれませんが、私が2期目も当選をさせていただいたということに免じて、引き続き、川西市政に対して、ご協力いただきますようお願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。</p> <p>どうかよろしくお願いいいたします。</p>
事務局	<p>それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思います。</p> <p>上村会長、どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
会長	<p>それでは次第に従いまして議事を進めさせていただきます。</p> <p>皆様のご協力をえてスムーズに進めて参りたいと存じますのでよろしくお願いいします。</p> <p>なお本日の会議は会議時間を概ね1時間程度とし、19時45分閉会の時刻として進めて参りたいと思います。</p> <p>何卒ご理解ご協力をお願いします。</p> <p>それでは議事一つ目と二つ目の令和5年度予算の概要及び行財政改革の取組の報告についてまとめて事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>皆さん、改めましていつもお世話になっております、行革推進課長の富本です。よろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは私のほうからは、議事の（1）令和5年度予算の概要についてそれから、（2）行財政改革の取組の報告について、この2点についてまとめてご説明をさせていただきます。</p> <p>それではまず資料1中期財政運営プランをご覧ください。</p> <p>令和5年度予算の概要の説明にあたりまして、まずは川西市の財政がおかれている現状、それから目標についてご説明をさせていただきます。</p> <p>これについては昨年の12月に市議会のほうにご報告ご説明をさせていただいた内容の資料となっております。</p> <p>まず、真ん中の目標というところに掲げておりますけれども新時代創造を実現するため持続可能な行財政体質を構築するということを目指して、令和5年度から令和9年度の5年間の財政プランという形で位置付けてございます。</p> <p>まず、収支推計というところをご覧くださいまして、令和4年から令和9年までの推計を試算をさせていただきます。</p>

歳入と歳出があって収支差引という一番下のところにC欄のところですけども収支の状況ということで歳入歳出につきましては現時点で推計可能な制度の改正というのは盛り込んだ内容となっております。

令和4年度につきましては収支差引き5億6,000万円という形になっておりまして令和5年度が2億2,900万円、黒字という状況でございます。

一方で令和6年度が4,100万円の収支不足が生じるという見通しになっていきます。

次にこれまでの財政健全化取組による影響見込みを踏まえた収支の2番のところになるんですけども、単純な推計に加えまして、行財政改革の取組で行いました事業再検証のによる収支の市の負担の減少部分、それから、審議会のほうでもご議論いただいて見直しを進めて参りました、使用料手数料の見直しの影響額、こういったものを考慮すると令和5年度のところの事業再検証の影響額、使用料手数料の見直しの影響額と合わせて9,700万円の市の負担の軽減が図れるという見通しとなっておりますので、収支推計の単純な推計に、さらにこの9,700万円の収支改善が見込まれて3億2,600万円の新たな財源が生み出されるだろうと、そういった表の見方になってございます。

そうすると行財政改革の取組によりまして令和6年度についても5,600万円の黒字部分が生じていると、単純な収支差引きだけでいきますと赤字だったんですけども行財政改革の取組によって黒字化をしていると、そういった状況となっております。

その下の3番の目標を達成に向けたさらなる取組ということで、これからさらに、この(1)で記載をしております総合計画や、総合戦略推進のための新たな新規の施策を何か財源から実施をしていかないといけないということを踏まえますと、令和5年度から令和9年度で、少なくとも10億円の新たな財源が必要になるという見込みをしております。

事業再検証など財政健全化の取組の影響を織り込んでも、5年で5億円という、新たな財源を生み出す必要があるということになっておりますので、今後の目標をとしましては、(1)を実施した上で収支均衡を維持するためさらなる事業の見直しを令和5年度から令和9年度で5億円、これを目標額として実施していく必要があるだろうということを、この財政状況の中期財政運営プランの中で、目標として掲げているというのが、昨年12月の時点の収支推計、中期財政運営一般の状況となっております。

次に資料の2をご覧ください。

これにつきましては、先ほどご説明しました中期財政運営プランを踏まえて令和5年度当初予算を編成をしております。

この当初予算に反映した行財政改革取組の予算反映状況と、いうものをまとめた資料となっております。

大きく3点あるんですけども、まず一番上の項目でございます補助金の見直しの内容となっております、団体運営補助の見直しということで38件の補

助金を見直しをさせていただきました。

それによりまして令和5年度を当初予算では、予算額のほうで842万4,000円減ったという影響が反映をしているということとなっております。

次に真ん中の箱のところですけども事業の見直しということで、令和3年度まで、皆様のほうにご協力をいただきまして全事業を再検証させていただきました。

その部分で令和5年度から、新たに影響額が出てくる取組をまとめております。

ここでは令和5年度新たに発生する見込み額としては6,999万4,000円というのが新たな予算への影響額になると。

中身につきましては下のほうに健幸マイレージの見直しであるとか、生涯学習の部分でゼロベースで見直したということで6,900万円新たに財源が生み出されているという内容となっております。

これまでの事業再検証による影響額につきましては1億8,950万1,000円ということが市のこれまでの財政負担が軽減されたと、そういった影響となっております。

次に、一番下、使用料手数料の見直しということでこちらのほうにつきましても、皆様のほうでご協力いただいて答申いただきました川西市財政健全化条例、これに基づきまして使用料手数料を見直していくと、また、加えて令和2年度に、審議会で見直しに関する基準を、ご議論いただきましてそれに基づいて使用料手数料の金額を見直しでございます。

それにつきましては令和3年度に市議会のほうの議決をいただきまして条例改正を行っております。

1年間の周知期間を経ましてこのたび令和5年度の予算から、改定された料金が予算上に反映しているという状況でございます。

それにつきましては使用料で2,729万1,000円手数料で423万3,000円の歳入が増加するという見通しとなっておりますので、合計で3,152万4,000円という歳入が増加するという予算となっているところでございます。

これら約1億円の財源が新たに生み出すことが出来たという内容となっております。

これまでの行革の取組によって市の財政に影響する部分というのはこういった状況となっております。

次に資料3をご覧ください。

資料を3-1から3-3までにつきましては、先月、2月に市議会のほうにご説明をさせていただいた行財政改革の取組となっております。

時間の関係もございますので細かい部分の説明は省略をさせていただきますけれども、取組として、資料3-1につきましては、市が保有している財産、これの無償貸付けであるとか、減額をして貸付けをしているといったようなものを見直していくに当たりましての取扱い基準ということで、統一したルール

を作りまして、それに基づいて今後、少しばらつきのあった貸付け料金なんかを、減免の判断といったところを見なおしていくという内容となっております。次に資料3-2でございます。

こちらのほうも施設使用料減免の見直しについての概要ということで、先ほどの見直しと同様に、減免する団体等にばらつきがあった、今現状の運用につきまして、統一的に運用をしていこうとするものでございます。

次に、最後に資料3-3でございます。

こちらのほうは市税の減免の見直しについての概要でございます。

こちらのほうも当審議会で、ご議論いただいて策定しました財政健全化条例、これにおいて市税の減免においても別の基準を作って皆、随時見直しをしていくということが定められておりますので、それに基づいて見直しを、基準を策定して運用していこうといった内容のものとなっております。

現時点ではこの大きく資料3に載せられてる三つの取組につきまして、先月、市議会にご説明をさせていただいて、令和5年度から、各個別の団体の皆さんにご説明をして、ご理解をいただいて進めていきたいというふうに考えております。

なお令和5年度の市の全体の予算の内容を少し触れさせていただきますと、子供の医療費助成の所得制限の撤廃や、18歳まで入院費を無償化とするような新たなサービスを拡充することが出来ました。

ただ一方で物価高騰による歳出増への対応として財政基金からの繰入れを行う必要があるなど、必要な財源対策を行いまして全体として、568億円ほどの予算計上をさせていただいているという内容となっております。

私のほうのからの説明は以上となりますよろしくお願ひいたします。

会長

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明についてご質問があれば伺いたいと思います。

ご質問がございませんでしょうか。

はい、委員お願いします。

委員

資料1の三つ目の3のところの資料の質問です。

新規施策例で6つ挙がっていますが、ここに記載されていないで、やりたかったけども漏れている、要はここに入ってこなかった新規策みたいなものは、何かありましたら二つ三つ教えていただけますでしょうか。

要は優先順位的にちょっと届かなくて、新規施策としては漏れてしまったような事業があれば教えてください。

市長

はい、この新規施策例ですが、私のマニフェストに書いた事業ですので、おそらくこれから何をさらに盛り込むかという、私の中で頭の中で盛り込めなかったものは多分、まだまだありますが、まず優先順位マニフェストの中では

	<p>最低限やらないといけないこととしてここにあると、ちょうど間もなくこの次の1年が令和6年度から、総合計画が新しい計画になりますので、その他盛り込むところっていうのは、まだプラス、ここから市民の皆さんとか各種計画作っていく中で出てくるのかなと考えています。</p> <p>具体的に例えば保育所の無償化をやりたかったけど、入れなかったとか、高校生の通院費まで入れたかったけど出来なかったということ具体的にやろうと決め切った物が漏れているというイメージよりも、まだ大物案件をどれを大物案件にしようかということ悩んでいるという状況です。</p> <p>ただ、マニフェストには所得制限の撤廃までは実は踏み込んでいなくて、私自身もどうするか悩んでいたところでしたので、財源的にも少し、将来夢を見るためにもここはアクセル踏むべきだと思って決断しましたので、載ってないからといって、やらないということでもないんですが、今のところ何かこうあるかなという、少しまだちょっとぼやとしてるかなっていうのがちょっと答えになっているかわかりませんが、そのような状況です。</p>
委員	<p>質問させてもらったのは、多分たくさんあると思うので、それを盛り込んでいくと今の1年当たり約1億円が1年当たり約2億円いるとか、3億円いるという話になってくるのかなということが確認したかったんですけども。</p>
市長	<p>はい、そうです。おそらくそれでもどっちを先にするかというのは非常に悩ましいところになると思いますので、現実的な生み出せる財源と夢との両方の調整が必要だと思っています。</p> <p>そういった意味でご指摘の通り、私にやりたいことを全部抜き出してやれと言うと、職員の体制としてできるかどうかも含めてお金以外のものも含めて、経営資源をどう配分するかということにかかってくるのかなとは思っています。</p> <p>他にやりたいものが、何としてもやりたいものが、プラス5億円となった場合は、当然、そちらが優先で5億円を生み出すための努力をするということの、行政運営をしていくほうにシフトをしていきたいなっていうのが今回の私たちの思いになっています。</p>
委員	<p>わかりましたありがとうございます。</p> <p>もう1個、もう一つは、歳入予測がありますが、これは現在の人口がどうなるという、予測で令和9年はたてられているのでしょうか。</p>
事務局	<p>ここの部分につきましては人口推計というのは総合戦略の中で、人口ビジョンを置いておりますので、このような内容で人口を推計していくということで、減少を止めるというようなイメージの計画です。人口が増えていくというようなものではなくって、一定程度、人口が減っていくというのを織り込んだよう</p>

	<p>な推計をしています。特に市税の部分なんかはそういう推計を置いているというふうな状況でございます。</p>
委員	<p>具体的に言うと、何人減る前提で令和9年を組んでいますか。それともステイ、横ばいという設定で、全然歳入が変わってくると思いますが、何人減るといふ前提で組まれているのでしょうか。</p>
市長	<p>確認させていただきます。</p>
委員	<p>では、後程で結構です。</p>
会長	<p>はい、委員お願いします。</p>
委員	<p>同じく資料1のところの目標のところなんですけど。 新時代創造実現するためというふうに記載されております。 別途違うところに、この説明があれば、その説明をしていただきたいのですが、具体的に新時代創造を実現というのは、ある程度、どういったものを想定されているのか、或いは、先ほど市長がおっしゃったようなマニフェスト等に依存しているのか、ちょっとその辺が、この資料1からはちょっとうかがい知れませんでしたので、補足のほうどのようなことを想定されているのかをご説明をお願いします。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。これも実は議会でもすごく議論になって、何か抽象的じゃないかと、ちょっとある種、キャッチフレーズですので、あまり具体的にしないほうがいいのかなということになって、今まで使っていた言葉を作りました。 ただイメージとしては今総合計画でも、子供というものを中心にしているということですので、この政策をした、新時代がどうなっているかというイメージの中で、子供が幸せになっている、その川西だということをイメージしていきたいなというふうに思っています。 ただ、まだ新時代という言葉にしているのは、総合計画で今あるべきまちの形というのをちょうど市民の皆さんと協議をしているところなので、私としては今、子供は一つの柱ですとかっていうこの投げかけは、している段階なんですけど、ちょっとまだ決まってないものを、あまりここでフィックスしないほうがいいのかなということなので、少しふわっとしたちょっと新しいものですよということにしているんで、少し定義と言われるとなかなか難しいところですが、イメージとしてはそういう形で今抽象的な言葉として置いているというふうにご理解をいただいてご整理いただければと思います。</p>

委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>そういった目標ということですので、ある程度抽象的にならざるをえないというのはわかりますが、ある程度、こういった方向性、新時代といってもいろんな考え方がとらえられそうなので、なかなか決めてしまうのは難しいと思いますが、抽象的ながらもある程度方向性が見えるような表現が今後、みつかるのであやれば、そういったことを踏まえて、今後記載してもらえれば、外部から見てわかりやすいと思います。これ、次の大綱にも関係してくると思いますので、お願いします。</p>
会長	<p>私もこの収支推計のところのその計算の前提条件はちゃんと書いたほうがいような気がしています。</p> <p>人口もさることながら、おそらくその成長率と金利の水準が多分結構効くよようになっていくはずなので、その想定は、例えば内閣府の将来見通しを使っていますとかいうふうには何か脚注があるといいかなと思ったりもします。</p> <p>こういうことを結構計算したりするので、若干、そういうようなこれはもう意見です。</p> <p>では、委員、お願いします。</p>
委員	<p>今の意見で、まさにその通りなんです。</p> <p>資料1の中にあります一番上。</p> <p>冒頭、題名が書いてありましてその中の三つ目のポツ点「令和5年以降には、新型コロナウイルス感染症、物価高騰、経済成長による物価変動による影響は見込んでいません」と、そういったような文言が書かれています。そのうえでのシミュレーションですので、正直、物価高騰はかなりありますよね。</p> <p>変な話、老朽化対策で、公営企業関係というのは、まさに物価高騰や光熱費そういったものに対して、シミュレーションの乖離が今問題になっております。</p> <p>それだけに、令和4年から令和9年のこの推計値はどこまで信憑性があるのかというのは、正直、定かじゃないなという印象を受けてしまいました。</p> <p>ですので、このあたり、やはり影響を見込んでいませんというこの文言を、いきなり冒頭に書いてしまうのは、まずそこはちょっと留意しなくちゃいけないかなと思います。</p> <p>その上で、難しいのは重々承知しておりますけれども、とはいえ、これだけ、光熱費とかが言われているだけに、シミュレーションの、信憑性がやっぱり疑われてしまうと思います。</p> <p>このあたりはどのような改良を考えてらっしゃるのでしょうか。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>はい、お願いします。</p>

市長	<p>詳細のデータは今回つけてなかったんですけど、公開しているデータがあるので、今そのデータを探しています。</p> <p>少し、この時期に出せなかった12月のこの状況で出しておりましたので、ちょっとこう全体がこう見込めなかったということもあったとは思っています。少しちょっと詳細については、また担当からお答えさせていただきます。</p>
事務局	<p>先ほど来からご質問のあったその人口ですとか、金利の成長であと今おっしゃってます部分の経済成長の物価変動。</p> <p>これはこの資料といいますのは冒頭説明しましたように、令和4年12月20日に議会に、中期のプランの説明した資料を引用して本審議会において、参考資料としてご提示させていただいたものです。</p> <p>この時点では、今の所申しました通り、組み込めてない、またはその部分というのは、今、数字裏づけの部分を確認してる部分はあるんですけども、これも含めて、またちょっとお調べして、後程お答えさせていただきたいというふうに思います。</p> <p>もうしばらく、お待ちください。</p>
会長	<p>他の意見、よろしいでしょうか。</p> <p>はい。続きまして、議事3 仮称行財政改革大綱の骨子案について事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは私のほうから、「仮称行財政改革大綱の骨子案」につきましてご説明をさせていただきます。</p> <p>資料4をご覧くださいまして、これは来年度本格的にご議論をしていただく行財政改革に関する計画です。</p> <p>この骨格、たたき台として作成をさせていただいたものでございます。</p> <p>来年度につきましても限られた時間の中で、ご議論をいただくこととなりますので、来年度スムーズに議論をスタートしていただけるように、本日は大きな考え方の部分で、ご議論をいただき共通の認識を持たらなというふうに考えてございます。</p> <p>なお計画につきましては、本日の資料に記載するような大きな行財政運営の考え方や方向性を示す計画としてまずは作成をしていきたいなというふうに考えております。</p> <p>また、その方向性をもとに、具体的に何をどういうふうにしていくのかという内容につきましては別途、別の実行計画、アクションプランのようなものをつくりまして取組を進めていくと、そういったイメージで考えております。</p> <p>本日はその大きな方向性の部分についてご議論をしていただけたらなというふうに考えております。</p> <p>まず資料のほうをご覧くださいまして左側の雲の図をご覧ください。</p>

これは川西市民の生活を取り巻く状況をとして外的要因として表したものでございます。

内容としては1番から7番まで国際情勢の変化による物価高騰であるとか、パンデミック、コロナ、気候変動、異常気象、人口減少等々、川西市民の生活を取り巻く状況をここに記載をしております。

これらのことから社会環境の変化に伴って市民ニーズの変化をしていくだろうというふうに考えられますので、それらに対応していくということが一つの課題になるかなというふうに考えております。

次に右側の雲の図をご覧ください。

これは川西市役所の行政運営を取り巻く状況として内的要因としてこれをあらわしたものでございます。

限られた経営資源のコントロールということで記載してありますが、人、物、金、情報、時間という経営資源、これらを取り巻く状況としまして、人の部分では複雑化増加する業務に対応した人材を採用を配置、能力開発等を行っていかねばならない。

物の部分では、建物の老朽化であるとかインフラの更新というのが迫られてきている。

また下お金の部分については限られた財源ということで優先順位づけされた施策を実施していかないといけない。

情報の部分ではICTリテラシーやリスクへの対応、それらの対応力というのも向上させていかねばならない。

それから時間につきましてもワークライフバランスの実現に向けた働き方の見直し等も含め、限られた時間の中で行政運営を行っていく必要があると。

これらのようなことから限られた経営資源で行財政運営をしっかりコントロールしていくということが一つの課題であるというふうに考えております。

次に図の真ん中あたりの目指す姿と、書かれた箇所でございますが、これは先ほどご説明した二つの状況から検討をいたしましたもので、変化の激しい時代に対応した効果的な市民サービスを提供し続ける行財政運営、これを目指す姿として一つ設定をしております。

それから、この目指す姿を実現するために必要な取組として三つ記載をしております。

図の点線で囲まれた四角の中になります。

まず一つ目、効果的な市民サービスの提供としまして具体的な吹き出しの中に少し書いてありますが効果的な市民サービス提供するためには、的確なニーズ把握や分析であるとか、市の行っている業務の中でコア業務と、ノンコア業務を仕分けて、コア業務に注力をしていくといったような視点、それから事業効果検証の組織風土化、またPDCAサイクルの徹底といったようなことが挙げられると考えております。

次に真ん中、二つ目の要素は、市民サービスを届けるまでのスピードアップ

としまして、具体的に吹き出しの中ですけれどもスピードアップをしていくためには最新技術の活用を行って事務処理であるとか、情報発信、それから意思決定、このような部分でのスピードアップを図っていく必要があると考えております。

それから二つ目としてアナログ規制からの脱却という項を、対面規制であるとか書面を出さないといけないとかいうところをできるだけそこから脱却をして市民サービスをスピード感を持って提供していけるようにしたいと。

それから現場への権限移譲であるとか、定例業務の自動化、標準化といったような取組を進める必要があるんじゃないかということです。

それから三つ目でございますが、スクラップアンドビルドの仕組みということです。少し先ほどの中期財政運営プランでも触れましたが、新規事業実施のための財源を確保していく必要があり、そのために毎年度、スクラップをしていく事業というのを決定するような仕組み、こういうのも構築をしていかなければならないと考えております

例えばそのサンセット方式で事業をスクラップするというのも一つの仕組みとなるかなとどういったものをしていくかというのはこれから検討をしていく必要があると思っておりますがこういった仕組みが必要ではないかということです。

それからスクラップにつきましてはE C R Sの検討ということで「やめる」ということ、それから、「集約をする」とか、「代替をする」「簡素化する」とこういった視点でもって、スクラップの検討をしていく必要があるというふうに考えております。

本日はここに三つの項目をお示ししてございますが、これらをブレイクダウンをして、具体化をしていったものが、実行計画となったアクションプランとなっていくと、そういったイメージになるのかなというふうに考えております。

また現時点での資料では、ここを三つとして挙げてございますけれども、このほかにも、こんな視点が必要なんじゃないかとか、こういうことも考えられるんじゃないかとかいったような委員の皆様のご意見やご議論をこういったことを、本日も含めて、議論していただけるとをいいかなというふうに考えております。

会長

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明についてご意見を伺いたいと思っておりますけれどもご意見ございますでしょうか。

では、委員お願いします。

委員

ありがとうございます。

この中で今、この三つ挙げられてるんですけれども、行財政改革の大綱の部分の中で、例えば、ちょっと不勉強で申し訳ないんですけれども川西の人口増減率とか、そういうものを加味したような、人を増やしていくような施策とい

事務局	<p>うのは、新規事業実施のための財源確保の中に入っていたりするようなもの。 今ある市民の皆さんに対することを改善したり或いは積み上げていくというようなことが書いてあるような気がするんですけど。 そういう意図ですか。</p> <p>はい、ここで人口を増加に繋がると言った視点というところは具体的には今は検討しておりません。</p> <p>我々としましては、全体の人口が減っていく中で、川西市だけが人口を増やしていくといったことよりも、今川西にお住まいで生活をされている方々に届けるサービスが良かったと、これからも住み続けていきたいといったようなそういう施策に注力をしていきたいと。</p> <p>それが結果的に人口増加に繋がるようなこととなるということもあるのかもしれないですけどもそこは、人口増加というのを一つの目標にして、数字を追いかけてというような考えは今のところは、検討していないと考えています。</p>
事務局	<p>補足だけさせていただきます。</p> <p>今担当課長が申しましたことと考え方は同じです。</p> <p>補足といいますのは、我々のこれまでの人口動態というのは、総合計画策定にあたっては、動態というのを調べて参りました。</p> <p>川西市の傾向といいますのは、自然減。いわゆる社会増。よりその上回っているという形です。</p> <p>ただ、社会増については年によってちょっと多少の微増ありますが、自然減の部分に凌駕するまでには至っていないというのが実態でして、それを見たときに、莫大な数の増加を他市からの流入はというのは、リアリティに欠けるというような思いが分析の中であって、そこというのは、総計の方でも審議はしてるんですけども、我々の考え方としては、まずは先ほど趣旨課長申し上げたのは、住むところの良さというところを、きっちり固めて、そこで実感してもらうことによって、今後、施策を組立てていくという考え方で、前から、政策についてはちょっと議論を進めていると、そういったことでございます。</p>
委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
会長	<p>では、委員どうぞ。</p>
委員	<p>このこちらのイメージ図ちょうど今表示されているところで、まず確認させていただきたいんですけど。</p> <p>上の二つ雲の部分があると思うんですけどこれは、現在の川西市役所或いは川西市民の取り巻く、置かれてる状況というのを現状をしっかりと把握したものを抽出されてると、内外の要因によって抽出されてると、その下で目指す姿があ</p>

	<p>ってそれにギャップがあり、そして、どういうふうに、ギャップを埋めていくんですかっていうので下に具体的手段、方向性が書かれてるとそういうふうに受け取ったんですけどまずその確認です。それで大丈夫でしょうか。</p>
事務局	<p>はい、そのような考えで記載しております。</p>
委員	<p>はい、ありがとうございます。それと最初のちょっと吹き出しのところ、雲の部分です。</p> <p>それぞれ外的要因内的要因の、それぞれの状況というふうに書かれていると思います。</p> <p>おそらくこれは、いわゆる SWOT 分析のように、内部と外部の要因で、現状をしっかりと内外の状況把握するために書かれてると思いますが、これを見ますと、外的要因のほうは、こういうふうにこうなっているということで、現状が記載されていると思うんですけど、右側の内的要因のほうは、状況というのどちらかという、そういったことを具体的に書くというよりも、目標が記載されている形になっていると思います。</p> <p>だから、現状把握すると、現状をきっちりと要約するという中では、ちょっと左のほうの外部の方と、書き方の整合性がとれていないのではないかなというふうに受け取りました。</p> <p>現状把握するという二つの雲の部分ですよね。</p> <p>要約記載するという意味では、ちょっと整合性を合わせる必要あるんじゃないかなというところが、1点です。</p>
会長	<p>いかがですか。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。ご指摘いただいた通りで、この書き方につきましては少しもうちょっと現状を把握をしたような内容で、もう少し掘り下げて、記載を検討していきたいと思います。</p>
会長	<p>はい、続いてどうぞお願いします。</p>
委員	<p>同じこの吹き出しのこの部分なんですけど、先ほど市長もおっしゃったように、これまではお金を制約とかで云々でということでもっとこう、アグレッシブにいこうというふうな観点であったと思うんですけども、それに沿ってちょっとコメントさせていただきます。</p> <p>例えばこの市民を取り巻く状況のところがあると思うんですけど、これ、ただ単に、こういう仕方がないことがいっぱい起きつつあるよねというふうな書き方にしか見えないかなというので、例えば SWOT の関係でいきますと、機会と脅威っていうのを外部の視点で書くことが多いと思いますが、今回はどちらか</p>

	<p>というこの脅威の書き方で書かれてると思います。</p> <p>だからこういった外的要因に関しても、例えば川西市として、これから、今言ったんですかね、もっとアグレッシブに加えて機会ととらえているのはどういうものなのか、というものを、現状把握の観点から、もう少し反映して書かれると先ほど市長がおっしゃったように、これからもやって行こうぜというのが、見えていくんじゃないかなと。</p> <p>同様に、右側の雲のほうですけども、内的要因のほうも強みと弱みという観点から書かれることが多いと思いますが、そういう観点から人、物、金、情報、或いは時間が、どうなのかというのを現状ベースで書かれる。</p> <p>それで、現状内外こういうふうな状況ですよ。</p> <p>じゃあ、目指す姿と突き合わせてどんなギャップがあって、それをどういうふうに埋めていけばいいんですかという話にストンと落ちていくかなと思います。</p> <p>だからそういった観点から、見直されて、考え方書き方ですかね、見直されるとわかりやすくなるんじゃないかなと思いました。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	はい。この点どうですか。
事務局	<p>事務局としては今回いただいております意見、もう一つ、わかりやすいような形で例えば右側の内的要因のところ、ご指摘いただきましたように何かバックデータの的なものですか、考え方がないというわけではございません。</p> <p>例えば人材育成基本方針ですか、あと公共施設の老朽化の状況のデータですか、そういったものを取りまとめた計画といったものがございますので、そういったものをもう少しバックデータとつけながら、今おっしゃっていただいた SWOT 分析的なものを何かの機会と脅威といったところでどう市としてとらえているのかいうところも、ご意見を参考にしながら、一度整理して、またお考えを示させていただいて説明させていただけたらなというふうに考えてございます。</p>
会長	<p>他いかがでしょうか。</p> <p>はい、では委員、お願いします。</p>
委員	<p>私のほうからですけれども、こちらは誰に見せるんでしょうか。尚且つ、今まで総計とか他の計画等ございます。</p> <p>そういったものの整合性も含めて、どのくらいの立ち位置としてこのイメージ図っていうのをお出しになる予定なんでしょうか。</p>
事務局	市の中でいろんな計画がある中で最上位にあるのが総合計画になります。

委員	<p>総合計画の中では川西市として目指す姿を、そこに記載をしていきます。その総合計画の下にくる個別計画の一つとして、その総合計画で目指す姿になるための一つ行財政運営の方針であることを示すといえますか、そういった、内容をテーマにするような計画として考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>わかりました。</p> <p>そしたら、今おっしゃった総合計画の下の個別計画という立ち位置で考えているのであるならば、ある程度これを見て、「これは川西市」っていうふうに分かるような内容、言い換えるならば、川西市は南北でかなりの違いますよね。その南北の違いが、私からみると難しいなと思っています。</p> <p>正直こちらというのは、他の市町でも出てきそうな雰囲気にもとらえられてしまうような一般論のような印象を受けてしまうんですね。</p> <p>ただ、一方で川西市というのは明らかに南部、北部とあって、どういう役割をするのかって、十分あるかと思えます。</p> <p>そうすると、外的要因、内的要因、先ほど、委員がおっしゃっていたSWOT分析の一番ベーシックなやり方であるのは重々承知しているのですが、ただ、ベーシックであるだけに、さらに今回おっしゃっている、総計の下で尚且つ各事例も本当に現場を動かしていこうという計画にするには、さらにもう少し具体的に落とした方がいいんじゃないかなという印象を受けます。まずこれが一つ。</p>
会長	<p>コメントありますか。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。今おっしゃっていただいたような視点をしっかり研究をしまして今現状、委員おっしゃられたような内容は全然盛り込めていない状況ですので、しっかりこれから分析をして、また次回の資料の中にしっかりと反映させていけたらなと思えますのでよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>今、実際はおっしゃっているのはまさしくその通りで、地域の特性が異なりますので、ただその辺が今こちらでお示しさせていただいているものが、例えばですけども、漢字の場合よく語るのに、南、中、北というような、地域の特性を大きく大別したときには語るわけなんですけども。</p> <p>それに落とせるだけになるかどうか、これはちょっと今の時点では何ともしようと言いがたいところがあります。</p> <p>しかし、ご指摘いただいたことはまさしくその通りでして、例えば今川西で並行して議論していますのが、北部のまちづくりということで、大きく、市民病院が移転したとか、そういった流れもあって特性で、町の課題というところが明らかになってきているところもありますので、そういった大きい範囲の中</p>

	<p>で一度我々としても、ご検討させていただきたいという形でご理解をお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。よろしいでしょうか。 引き続きお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>実際に南中北とおっしゃっているところっていうのはもう常々言われてんですのでその点で、最初に冒頭に質問しました。 この立ち位置はなんですかというふうに、もしかしたら総計よりも上であるならば、これでもいいのかなと思いました。 しかしながら事例個別にやるっていうことで、おっしゃったので、あえてご指摘したものにすぎません。その辺ひとつちょっと留意していただきたいのが、先ほどの人口の議論ございました。 もう人口減少は、この本市に限らず、どの市町ももう人口減少しています。今はもうその減少幅をいかにして緩めるのか。 そこに尽きますので、人の取り合いっていう世界からも、一歩も二歩も先に行かなくちゃいけない状況がございます。 そういった中で、自治体も2040年の自治体戦略構想をつくっております。 これは総務省の考えになりますけれども、このあたりはもう人口減少していますのでそれに適した規模のサービスを行わざるをえない。 なおかつ、そのときに、公と民、何を公がやるべきなのか、最低限やるべきところを公、ここに特化していかないと、この先10年、20年後、対応が難しいんじゃないかって、これはもう皆さんもよくご存知だと思います。 となりますと、この中の本当にある程度、これだけはこうでやりましょうと。それが多分、コア業務とノンコア業務とか、あとはスクラップ、こういったことが見えてくるかと思えます。 ただこれの優先順位が若干下だったので、すごく気になっておまして、このあたり、ぜひ皆さんが仕事をふやす方向ではなくて、これからの将来の川西市の職員がここにやりたい、働きたいと思えるような、そういったような形で落としていただきたいなと思えます。 これはコメントです。</p>
<p>会長</p>	<p>コメントということなのでこれはよろしいですね。 他いかがでしょうか。 はい、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>委員が話されたことと全く同感です。 上の二つのところは川西市民の生活を取り巻く状況とか川西市役所のっていうのが、宝塚市民の生活をとく、尼崎市役所の行政運営と書いても、全く同じ</p>

ものが出てくるような、ローカライズが出来てない、具体性がないっていうところがとても問題だなあと思っています。

国が出してきたペーパーをコピーしてもこれになるだろうみたいな話なので、やっぱり本当に分析したら違う項目が上がってくるんじゃないかと。

この問題だから川西だよねっていう項目が最低七つあるんだったら四つぐらいは出てこないと、しっかり分析出来たとは思えないなあというのが私の感想です。

それともう1個は、下の方で、コア業務とノンコアとか、スクラップアンドビルドっていう文脈に近いけども少し違うので言うと、職員の皆さんの生産性っていう言葉が出てきてないなと思っています。

要するに人数は半分になるけど倍の仕事をする、業務量は同じだけできる。極端な例ですけども、みたいな、どう生産性を上げていくんだっていうことがやっぱり大きな項目として必要ではないかと思いました。

それともう一つは今度市民の皆さん側の生活を考えたときに、当然歳入にも関わってきますけども、可処分所得を増やすとか、1人当たりGDPを増やすとか、家計所得を増やすために何か出来ないかっていう文脈でやっぱり事業施策が動いていくのがいいんじゃないかなと思っています。

よって、先ほどの生産性という項目と、可処分所得を増やすってことが実現できれば、おそらく豊かな、楽しいここに住んでよかったなということは間違いなく実現するだろうと思います。

そこに向かうにあたって、普通に考えると人口減っていくということは、川西市民が減っていくサービス提供者が減っていくであれば、行政予算はその通り減っていくのが当たり前だと思うので、3割人口が減るんだったら3割予算が減っていくような、考え方で、中長期でとらえているのか、もしくは、それをさらに生産性上げて、かつ市民の皆さんの所得が上がるような事業をどうやっていくのかっていうふうな、少しちょっと大きな構造改革みたいな視点も取り入れてもらえると、とてもいいなと思いました。何かご意見あるでしょうか。

会長

はい。

いかがでしょうか。

はい。お願いします。

市長

大きなご指摘をいただいたので私がお答えをさせていただきたいと思えます。

そして、ちょっとお答えしていないその資料の部分はまた後程お答えさせていただきます。

人口に関しては基本的には我々行政はどうしても現実的な数字で作っていくということになっていますので、人口は減少の数字で見えています。

令和7年で15万1,000人、その5年後が14万6,000人というそういったペ

ースで減っていくと、大体川西市の最近の近況で言いますと、お亡くなりになる方が年間1,800人ぐらいですから、生まれる方が800人から900人ぐらいの間ということで、その差の部分、ほぼほぼ人口としては減っていると、社会増減に関しましては、傾向としては生まれて、0歳児の方が小学生に入る頃には、例えば800人生まれたら6年後には800何十人かになっていると。

ですから、0歳から10代、10歳未満の子供たちは、子育て世代が連れてこちらに転入をされて、おそらくこう家を買われるというのが、川西市のある種、勝ちパターンだというふうに思っています。

ただ一方で20代、になってくると、やっぱりそこが急激に落ちて、30代結婚された子育て世代が少しく入ってきている。

社会増減のプラスマイナスというのは、若干そこでマンションが建つ時期がどうだとか近隣との競争がどうだということによって、プラマイは年間によってちょっと違いますが、ここ3年4年はおそらくプラマイほぼゼロの状況というのが自治体の状況です。

この社会増減というのをそんなに意識をした数字というよりも、リアリティーを持って子供が減っていくお年寄りがお亡くなりになっていくこの減っていく部分を、人口ベースとしては見ているそれに基づいた税収とかを組んでいるということです。

それから生産性についてですが、行政運営の行政改革ですから、おそらくさっきおっしゃったように、最新技術の活用とかです。

意思決定のスピードを上げるとか、そういったことが生産性を上げるという多分趣旨なんで我々としては記載をするつもりです。

少しそこがやっぱり、見えない状況になっているなということですので、表現とか、そういうふうにしっかりとメッセージとして生産性を上げていくんだということは、我々としても出していきたいなと思っています。

もう一つの可処分所得を上げるというのは私も非常に、大切だと思っております。イメージとしてはこれを、行政改革の大綱にしていくのか、もう少し全体的な総合計画の中で盛り込んでいくべきなのか。

今回新時代創造プランというのは、そういうやりたいことと増やすお金のしっかりとしたパッケージという意味ですから、行政の見直しの部分はこうやるけども、増やすところ何とかつくと、例えば、市街地調整区域、インターチェンジ周辺というのは、かなり土地利用を見込みがありまして固定資産税なんかは若干、もう、建設が決まっているところは、一部もう入るだろうということをすでにこの市税の中にも見込んでいる部分もありますが、さらにそこを進めていく、土地利用を進めていくということができれば、そこは歳入としても見えていけるというふうには思っています。

ただ、まちづくりの方向として我々が共有するのは、どうしても市民の方は、何かをしたら、子供が増えて何かをしたらたくさん人口が増えて、自分たちの苦勞なく削減なく、行政サービスは維持されるはずだと、やっぱり市民の何と

	<p>なくな思があります。</p> <p>我々としては、厳しい現実としてやっぱり人口が減っていくってことは前提としながら、そのためのサービス水準というものがこうなんだということも、今先生からご指摘いただいたような視点を盛り込めたら、他にはない計画になると思います。</p> <p>少しオリジナリティがないというのは先ほどちょっと私が述べたようなその強さの部分とか、だからここにはサービスをもっと充実させたいけるんだとか、ここはもう少し手を抜くと言うとちょっと難しいですが、ここは少し諦める部分というか、もう本当に標準レベルで押さえておく部分とかという、その強弱なんかも、どこかで出す必要があるというふうには思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 事務局お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど中期財政運営プランの中で人口の推計がどうなっているのかというご質問の部分でデータのほうちょっと確認をさせていただきましたのでご報告させていただきます。</p> <p>中期財政運営プランでまず人口をにつきましては先ほど人口ビジョンのというお話をさせていただいた中で市長が先ほど申し上げました通り、国勢調査をベースにして行っておりますので、5年おきにはなるんですけども、令和7年で15万1,000人ほどの人口が、令和12年、5年後に14万6,000人ほどになるだろうということで、5年で5,000人程度を減少するという前提で収支推計を置いているというのが一つです。</p> <p>あともう一つ歳入の面では市税の部分で納税義務者といいますか納税をされる方がどのくらい減るかということも見込んでございます。ここについては令和5年度では7万4,000人ほどの納税にされる方がおられるのが、令和9年度、5年後では7万3,000人ほどということで、5年で1,000人ほど減るというような前提で収支推計を置いているという状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの、これ、どこの自治体もよく言われるんですけども。</p> <p>市民が受けるサービスが1だとして、人数が100だとすると、歳出は1×100人で100にりますと、人口が70になると、1×70人で70になるので、歳出は100から70に減るんだけども、市民が受けるサービスはそのままなんですよ。</p> <p>なので、人口が減るから、市民サービスも減らさざるをえないっていう議論、文脈はちょっと僕は間違っていると思っていて、総歳出額が減っていくんだけども、市民サービスは維持できるはずだと思ってます。</p> <p>もちろん、労働人口が減るとかそういう別の要素で、変動するんだと思いますけども、総額は減っていくけれども1人ずつの市民サービスは維持する。</p>

そして生産上げることで、もう少しアップするっていうことを何とか実現できるような、素晴らしい川西市にして欲しいなっていう要望とそれと、これはぜひもう1個踏み込んでもらいたいのは業務分析です。

職員の皆さんの、川西市の実態がどうか僕よくわかりませんが、多くの自治体でよく言われるのは、実際に何に一番時間を使っているっていう分析すると、議員への対応ですごい時間がかかる。

これは議会との、協力のもとでどう改革していくかみたいな話だと思いますけども、ここの問題、それと、上司への手戻り、若手が出しても何度も突き返されそれも細かい、一言一句の指示みたいなもので、ものすごい時間かかる、もしくは、任せればいいのに、自分でデザインやってすごい時間かけてるみたいなことがあったりとか、それから、新時代の職員に求められる人材スペックが何なのかっていうことで、プログラミングぐらいは自分でできる職員になっていきましょうってなってくると当然、作業量変わってきたりとか、外注費が変わってきたりとか、採用が変わってくるみたいなことが起こりますので、ぜひもう一度、今の職員の皆さんの業務分析をしっかりとやっていただいて、何を身につけてどんなふうに働くかというところがやってもらえると、とても強い川西市役所になるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

会長

いかがでしょうか。よろしくお願いします。

市長

前段のほうだけ私から。今ずっと私が申し上げておりますが、例えばやはり人口が減っていくと、維持しなければいけないものを変えていかなければいけないと、今まで、これ、言うとなんか議会に怒られるかもしれない。

仮に公民館が10個あって、人口が半分になったら公民館もやっぱり半分にならないと、1人当たりの負担額は倍になるとか、街路樹を、人口が3割減るんだったらやっぱり3割を減らしていかないと、サービスとしてやっぱり維持が出来ないと。

なのでやっぱりしっかりと、お金の使い道とか事業の見直しとか公共施設の在り方とかっていうのを見直していこうと。

そうするとどうしても市民の皆さんやっぱり削減と見られるんですが、それはむしろ削減ではなくて、今の皆さんのサービスを維持するための、見直しなんだと。

むしろこれをすると、公共施設のこれをなくしたところで、人口変わらなかったら、床面積を変えたって1人当たりの使える量は一緒ですよ。というアプローチになれば、なかなか目の前にあったものがなくなるのは、お1人お1人の立場からしたら、不便なところはあるのかもしれませんが、総和としては多分そういうことなんだということをしっかりと我々が受け止めて、マイナスじゃなくてしっかりと質を高めていくんだと。

量が変わることでも質は維持できるんだっていうことのメッセージが、もう

事務局	<p>少し出たらいいのかなというふうに思いましたので業務分析はちょっと来年度 の取組なんかは、担当からお答えします。</p> <p>業務分析のことです。委員ご指摘の通り、分析を行うことによって業務の効 率化ですとか、生産性が向上に繋がると、我々も認識してございます。</p> <p>実は令和5年度は、そういった観点から全庁的に、業務の調査を合わせてや る予定で考えてございまして、ぜひご指摘いただいている点に繋がっていくよう な、そういった形で分析して成果を上げていくような取組をしたいというふう に考えてございます。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>はい。</p> <p>他なんかコメントありますか。</p> <p>はい、委員お願いします。</p>
委員	<p>大体もう皆さんと同じ形なんですけど、私もこのイメージ図を見て、取り巻 く状況に書かれている要因が、優れている点、強みを書かれているのか弱みを 書かれているのかがわからなくて、戦略的人事が出来ているって言っているの か、人事が必要だと言っているのかがわからないので、この要因分析では、対 策もなかなか紐付けるのは難しいなと思いました。</p> <p>あと、この目指す姿で変化の激しい時代にかそういうフレーズになると、 今企業さんでは、ダイバーシティー公正性インクルージョンですごくうたわれ て、川西市の職員の皆さんとかですかね、外郭団体の状況は存じ上げませんけ れども、やっぱりその革新とか変化とか、効率性で考えるときに、そのD Iの 考え方っていうのは、国も主導で動いておられるわけなので、そういうのを、 うたって中小企業、市内の皆さんにも取り組んでいただくっていう姿勢は一つ 考え方としてはあると思いますので、それが総合計画に入るのかどうかはあれ ですけど、そういう視点も入れられたらいいなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こちらについて何かいいですか。</p> <p>これこれ意見ということで、何かコメントがあればどうぞ。</p>
事務局	<p>先ほどの他の委員との同じの視点の意見もございますので、我々としまして は、大きい概念で今回資料をお示ししたものですので、例えばですけども職員 の採用の在り方ですとか人事戦略といったものが、まず現状がどうなっていて、 それをどう変えようとしているのかといったところを次回の審議会には、もう 少しブレイクダウンしたような形でご説明をさせていただけるような、資料を 立てさせていただきたいなというふうに思っております。</p>

簡単に今の現状を申し上げますと、採用については令和4年度に、人事の流動性というのは民間も、公務員も現場は変わってなくて、一緒なんです。

といいますのは、我々込む員も若手の職員が他の職業に変えるという動きもあるのは一緒で、流動性というのは、コロナ以前とを比べますと、変わってきてるというのは実感してございます。

そういったこともあって育休や働きやすさ、仕事と家庭のバランスといった点も含めて多様な観点が生まれてきているという認識があり、それに対応した人事戦略を立てないといけないというふうに思っています。

令和4年度は、通常では今までの管理の歴史ではなかったんですけども、30名ほど中途採用者、民間の中途採用者経験者を採用するというようなそういったことなんかも執り行っております。

配属した先では非常に有能な職員を採用してもらったという声なんかも受けています。

そういう新たなチャレンジングな、人事採用なんかも行っておりますので、委員ご指摘あった一部ではあるんですけども、こういうご紹介を、もう少し資料の中にちりばめながらご説明をさせていただくべきだと認識してございます。

会長

よろしいですか。

はい、もうそろそろ時間がきています。皆さん盛りだくさんでありがとうございます。

ちょっと私のほうから、これは意見なので、質問ではありません。

下の方で、成功要因で123があって3番の再生可能エネルギーってあるんですけど、この内容を見ると、再生可能エネルギーの中に公共施設の省エネ化、エネルギー高騰、供給リスクの軽減、ゼロカーボンシティ宣言とありますが、再生可能エネルギーのカテゴリーとしてはちょっとおかしい項目かなと思っておりますので、例えば、グリーンイノベーションとかそっちのほうで、表現としていいのかなと思いました。

それで、生産性の話とか、ICT化とかDXの話なんですけど、やはり外形的にはかる指標をきっちりつけていくのはとても重要だと思います。

例えば、判子がいらぬ書類はどこまで削減出来たかとか、紙がどこまでなくなったかとか、あと紙媒体が無くなると書庫とかが空いていくのでそのスペースがどんだけ増えてきたのかとか、あと働き方が変わってくると時間が増えてこの時間がどれだけ増えたかとか、そういうような指標をきっちり作って見える化していくのが、いいのかと思います。

はいありがとうございます。

会議録については発言要旨を事務局でまとめてもらうことにしまして、各委員の発言については名前を伏せることといたします。

事務局	<p>また会議録の承認については、会長である私が承認させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>本日の議事は以上ですので、一旦事務局マイクを返します。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>皆様どうもありがとうございました。</p> <p>それでは本日の会議はこれで終了とさせていただきます。</p> <p>なお、委員の皆様には、事務連絡がございますので、会議終了後そのままお席にご着席いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、今年度の審議会についてもこれで終了となります。</p> <p>委員の皆様の任期も今年度末までとなります。</p> <p>来年度につきましても、現委員の皆様をお願いしようと考えておりますので、別途スケジュール調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
-----	--